

『茅^ちの輪^わくぐる』の由来

びんごのくに

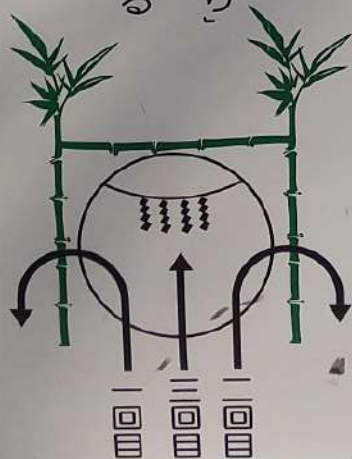
そみんしやうひついでい いたんしやうひついでい

遠い昔、備後国（現在の広島県）に蘇民将来、巨旦将来という二人の兄弟が住んでいました。兄の蘇民は貧しい暮らしでしたが、弟の巨旦は裕福な生活を送っていました。ある時、旅の途中でこの地を訪れたスサノオノ命は、日が暮れてしまったので、二人の兄弟に一晚泊めてくれるよう頼みました。裕福な弟の巨旦はこれを断り宿を貸しませんでしたが、貧しい兄の蘇民は宿を貸し、心づくしのもてなしをしました。スサノオノ命は蘇民のもてなしをととても喜び、無病息災の茅の輪の作り方を蘇民に教えました。その後、蘇民一家は

教えられたとおり茅の輪を作り、病気に
かかることなく過ぐすことができました。

「蘇民将来子孫なり」と唱えつつ

三回くぐる



この故事から、各地で『茅の輪くぐる』の
神事が行われるようになりました。
皆さまもこの茅の輪をくぐり、身も心も
清めて、日々を健やかに過ごして下さい。